

「新国立」変わる街 記録

2020年の東京オリンピック開催まで、21日で残り1年。国立・五輪・パナソニックのメイン会場となる国立競技場の建設は、東京五輪大会(2020年)のセールの象徴として、市民の注目を集めている。本誌が、この1年間の建設現場の様子を、写真とインタビューを通じて、後世に伝える。



大学生が定点観測 後世に伝える



定点観測を行っているのは、同大の建築学専攻の学生たち。スマートフォンで撮影した写真や動画を、クラウドで共有して共有しており、今月15日まで観測は2回を終えた。

観測のメンバーは、競技場の建設現場で、建築学専攻の学生たち。スマートフォンで撮影した写真や動画を、クラウドで共有して共有しており、今月15日まで観測は2回を終えた。

引継ぎが完了。これまで、約100人の学生が活動に参加した。学生たちは、競技場の建設現場で、建築学専攻の学生たち。スマートフォンで撮影した写真や動画を、クラウドで共有して共有しており、今月15日まで観測は2回を終えた。



①2016年7月3日
本体工前の建設予定地



②2017年9月14日
クレーンが立ち並び、観客席も建設中



③2018年1月18日
外壁が高くなり、競技場の全体像が現れる



④2018年3月6日
外壁が更に高くなり、競技場の全体像が現れる

完成目指して

工事現場撮影

※写真はすべて東京五輪大会